がん化学療法看護認定看護師教育課程修了報告とその後の活動

（地方独立行政法人京都市立病院機構京都市立病院　6D 病棟）
大柿　深雪

要　　旨

がん薬物療法を受ける患者と関わる中で，治療に伴う副作用に対するセルフケアが行えるように支援することは，患者の QOL を向上し治療を継続していく上で重要であると考えた．そのため，がん化学療法看護に関するより専門的な知識と看護実践能力の向上，患者のセルフケア支援やスタッフの教育・指導方法に繋ぎたいと考え，本教育課程を受講した．その中で患者の背景やセルフケアレベルを見極め，副作用に対するセルフケア支援を行っていくことが重要であると学んだ．日々新規の抗がん剤が採用され，レジメン登録されている中で，院内外で患者が安心して治療を受けられるように院内スタッフの教育や，患者への情報提供，多職種との連携を行い，患者・家族の意向に沿った意思決定支援を行っていくことを課題とする．
（京市病紀 2021；41：97-99）

Key words：がん化学療法看護認定看護師教育課程

は　じ　め　に

がんの治療には，手術療法，薬物療法，放射線療法，免疫療法の 4 つがあり，それらを組み合わせた集学的治療が行われている．その中でも薬物療法は，従来の殺細胞性抗がん剤に加え，分子標的薬などの様々な薬剤が開発されている．看護師は実臨床の中で，使用される薬剤の効果や副作用を理解し，患者が安全安楽に治療を継続できるように支援していく必要がある．

私はがん化学療法を受ける患者と関わる中で，使用される薬剤の副作用などを理解し，その情報提供や患者の生活にあわせた副作用対策をともに考え実行することは，患者の苦痛を軽減し QOL の向上に繋がり，治療を継続していく上で重要であると考えた．そのため，がん化学療法看護に関するより専門的な知識と看護実践能力の向上，またそれを言語化することによって，患者のセルフケア支援やスタッフの教育・指導方法に繋ぎたいと考え，本教育課程を受講した．その中で，患者の拝啓やセルフケアレベルを見極め，副作用に対するセルフケア支援を行っていくことが重要であると学んだので報告する．

認定教育課程の研修期間

2019 年 6 月 3 日～2019 年 11 月 29 日

研修内容と学び

研修は共通科目，専門基礎科目，専門科目に分かれ，共通科目や専門基礎科目ではがん化学療法看護・がん放射線療法看護・緩和ケア分野合同でグループワークなどが行われた．

専門科目については，各種がんに対する主要ながん化学療法レジメンが治験結果から標準レジメンになるまでの過程を含めた講義を受け，レジメンについて理解を深めることができた．また，がん化学療法剤の経静脈投与時の血管アセスメントの方法や穿刺手技，CV ポートのトラブルやその管理方法について学んだ．レジメンの特徴や患者の個別性をアセスメントした上でルート確保を行うことは，安全で安楽な投与管理を行う上で重要であると感じた．

曝露対策については組織横断的な対策や個人防護具の使用方法，排泄物などの取り扱いなどについて講義や演習が行われた．当院では全ての抗がん剤に対し閉鎖式薬物移注システム：CSTD（Closed System Transfer Device）が導入され，医療従事者に対する曝露対策がとられている．現在，治療の場は外来へ移行し，経口抗がん剤も増加している．そのため，患者に対しても自宅での経口抗がん剤の管理方法や曝露対策などの支援を強化していく必要があると考える．

臨地実習では血液内科病棟と外来化学療法センターで治療を受ける患者を受け持った．60 歳代の女性，びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫 Stage ⅣA に対し，根治目的の R-CHOP 療法を受ける患者であった．職業は元小学校の教員で，退職後学童の指導員として働いていた．治療に伴う副作用として脱毛，便秘，悪心などの副作用について説明されていたが，その中でも脱毛に対し治療前からウィッグを準備するなどの対策を行っていた．治療終了後は職場復帰を考えており，「仕事に復帰するときはウィッグを使おうと思っています．」と話していた．

患者は脱毛することによって，学童の子供達との人間関係が変化することに不安を感じ，そのような対処行動をとっていることが考えらえた．そのため，患者の気がかりは脱毛であると考え，症状マネジメントの統合的アプローチ：IASM（The Integrated Approach to Symptom Management）を使用しセルフケア能力を判断した上で必要なセルフケア支援を行った．この事例を通して，患者の置かれている背景を深くアセスメントすることは，先を見据えた個別的な支援へ繋ぐことができること，脱毛に対する支援は医学・整容的な支援を行うと同時に患者背景を理解した心理社会的な支援が重要であることを学んだ．

研修終了後の自己の課題

認定教育課程の6月から8月の研修ではがんの理解に必要な基礎知識やがん看護の基盤となる考え方，がん看護の実践の基本について学ぶことができた．自分が今までに経験している診療科の疾患については，より学びを深めることができ，経験したことのない診療科の疾患については実臨床に沿った新たな知識を得ることができた．講義を受け知識が増えてくると，明確な根拠もなく，経験したことを元に看護を実践していた自分に気づくことができた．また，それと同時に自分が実践していた看護と講義で学んだ理論に沿って振り返ることができ，自分が行っていた看護が意味づけされ，学びを深めることができた．

臨地実習の教育セッションでは実習先のニーズを調査し，外来化学療法センターの看護師を対象に勉強会を行った．自分が伝えたいことを相手にわかりやすく伝えることの難しさや，自分では対象者のニーズや臨床レベルを把握していたつもりであったが，実際は自分が伝えたいことを優先していたことに気がついた．対象者のニーズや臨床レベルを見極め，対象者に合わせた教育や指導を行っていくことは，認定看護師として活動していく中で重要である．また，看護師の指導だけではなく，患者へのセルフケア支援の際にも同様のことが言える．患者の価値観やニーズを大切にしながら，セルフケアレベルを見極め支援していく必要がある．そのためには今まで学んできた知識だけでは足りておらず，患者が実行可能なセルフケアの方法を提供できるように，自身の知識やスキルを更に向上していく必要がある．

研修修了後の活動

当院に登録されているがん化学療法のレジメンは300件（2021年3月現在）をこえており，日々新規の抗がん剤が採用され，レジメン登録されている．病棟には，消化器内科・血液内科のレジメンに詳しいスタッフもいれば，今までにがん化学療法の投与経験がないスタッフや，化学療法の投与経験はあっても，他の診療科からの異動者で血液内科や消化器内科のレジメンを取り扱ったことのないスタッフが混在している．そのため，スタッフがレジメンについて理解を深め，誰もが安全にがん化学療法剤の投与管理ができ，患者も安心して治療を受けることができるように，スタッフとともにがん化学療法看護レジメンマニュアルの新規作成と見直しを行っている．

また，疾患別標準レジメンの一覧表の作成を通して，患者がどのような治療を受け，どのようなケアが必要になるのかを予測して支援できるように繋げていきたいと考える．

外来化学療法センターで治療を行う患者は年々増加している．外来で治療を継続するためには，自宅でのセルフケア管理が重要となってくるが，外来化学療法センターで治療を受ける新規患者（2020年8月から2021年8月）では70歳代の高齢者が最も多く，経口抗がん剤・支持療法の服薬管理や副作用に対するセルフケアが困難な患者もいる．外来化学療法センターで治療を受ける患者に対するオリエンテーションを通して，患者の気がかりを確認し，必要に応じて薬剤師やMSWなどの多職種と連携することで患者が安心して外来で治療を継続できるように支援を行っている．

今後は，外来や病棟での病名告知のインフォームド・コンセントの場に同席し，必要時情報提供や多職種との連携を行い，患者・家族の意向に沿った意思決定支援ができるようにしていきたいと考えている．

最後になりましたが，このような長期研修を受講する貴重な機会を与えてくださった皆様に心から感謝いたします．

Abstract

Report on Activities after Completing the Curriculum for Cancer Chemotherapy Nursing for the Certified Nurse

Miyuki Ohgaki
Ward 6D, Department of Nursing, Kyoto City Hospital

As a nurse attending patients undergoing cancer chemotherapy, I considered it important to support the patient to conduct self-care for the side effects occurring with the therapy in order to improve the patient's quality of life and enable continuation of the therapy. I decided to take the training course for cancer chemotherapy nursing to gain professional knowledge on chemotherapy nursing and practical nursing skills to support the patient's selfcare and to train and educate the staff. I learned the importance of analyzing the patient's situation and level of selfcare to help the patient attend to the side effects. With the constant appearance of new anti-cancer drugs and registration of new regimes, the important tasks are to educate the hospital staff and conduct multidisciplinary collaboration to help the patient receive treatment safely as an inpatient and outpatient and support the decision-making process according to the intensions of the patient and family.

(J Kyoto City Hosp 2021; 41:97–99)

Key words: Curriculum for Cancer Chemotherapy Nursing for the Certified Nurse